

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 13 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26380441

研究課題名（和文）江戸時代の少子化問題

研究課題名（英文）How People React to Low Birthrates in Tokugawa Period

研究代表者

高橋 美由紀 (Miyuki, Takahashi)

立正大学・経済学部・准教授

研究者番号：50361845

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：現在、日本を始めとする多くの先進国では「少子高齢化」に直面している。人口減少により経済が縮小し、社会が閉塞状態に追い込まれるという懸念の声もある。しかし、生産年齢人口縮小による経済的問題に直面したのは、歴史を振り返ると今回が初めてではない。

本研究では、近世日本の人口史料から、人口の減少や停滞を経験した農村と町場のデータを確認した。そして、周辺史料も用いて女性の働き方の子育てへの影響、為政者の対策などを考察し、現在および将来の人口問題を考える上での示唆も得るように努めた。結論として、女性への多大な労働負担を回避することは歴史においても現代においても子ども数確保という観点からも重要だといえる。

研究成果の概要（英文）：In many developed countries birth rates are falling. Japanese population is decreasing and some are worrying about economic stagnation caused by small number of population. But the situation is not completely new. If we turn our eyes to Japanese pre-modern society, we know people were also worried about the same problem.

In my research I used documents called, "Ninbetsu-aratame-cho", which is a kind of census. My main research area is Koriyama in Fukushima. I also used documents of Kasukabe in Saitama, Tokura-shinden located at suburb of Tokyo and Kashiwa area in Chiba. My conclusion is, the low birthrates were caused by hard living standard especially that of women. I have tried to describe life courses of women in pre-modern society and tried to look at difficulties they faced in giving birth and bringing up their children. Many women were burdened with very hard work. We must lighten such burden imposed on them to raise birthrates in both historical and modern society.

研究分野：歴史人口学

キーワード：少子化 歴史人口学 近世日本 二本松藩 女性労働 人口政策

1. 研究開始当初の背景

現代の日本社会において「少子化」が大きな問題としてとりあげられている。そして、少子化による労働者不足は、喫緊の課題として対策を迫られている。

しかしながら、出生率低迷による人口不足に直面し、対策を迫られたのは、実は現代が初めてではなく、歴史を振り返ると同様の問題が存在していた。

江戸時代は、人口に関する史料が豊富であり、それを用いて地域人口の実態と経済との関係、ひとびとの対応を考察することにより、現代日本における少子化問題を考える一助とすることは重要である。

2. 研究の目的

江戸時代の「少子化」について、その状況と対策とを、いくつかの地域に残された史料を用いて検証し、現代の日本が直面している少子化問題に関して考察する一助とする。

対象とするのは、江戸時代中期から後期にかけて人口が停滞気味であった関東および東北日本の地域である。中心となるのは、研究代表者がこれまで数量的な分析をおこなってきた現在の福島県郡山市である。そのほか、千葉県柏市、埼玉県春日部市などの関東地方の村落や宿場町などについても史料収集からデータ構築、統計作成までをおこない、地域の経済的立ち位置と人口の様態についての関係性を探る。また、それぞれの地域においてひとびとが人口減少・出生率の低迷にどのような対策を講じたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

これまで歴史人口学が培ってきた人口分析の方法としては、近世の人口を知る中心的史料の「宗門人別改帳」（呼称は多種存在）に関して、以下のような手続きでおこなう

- ①史料調査
- ②史料収集（史料撮影）
- ③史料解読
- ④史料整理（Basic Data Sheet への記入）
- ⑤BDS からのデジタル化（入力）
- ⑥デジタル・データからの統計作成
- ⑦分析

郡山歴史資料館（福島県郡山市）所蔵の安積郡郡山宿や下守屋村の人別改帳は、⑦までが終了しており、国際的な歴史人口学の資料としても活用されている。この資料については、さらに精緻な分析をおこなった。

埼玉県立文書館所蔵の粕壁宿については、研究開始段階で一部の年について④までが終了していたが、別の年の史料が存在することが明らかになったことから、新たに①の撮影から開始し、すでに作成した BDS を元に改めて整理をおこなった。

国分寺市立図書館所蔵の戸倉新田については、⑤の BDS 作成までが終了していたので、Excel を用いて入力をおこない、電子デ

ータを作成した。

そのほか、宗門人別改帳以外にも女性の労働と子どもへの対応を知る事の出来る近世史料を解読し整理した。

4. 研究成果

(1) 千葉県柏市周辺地域について
関東近郊の村落は、人口減少地域として知られている（図 1）。

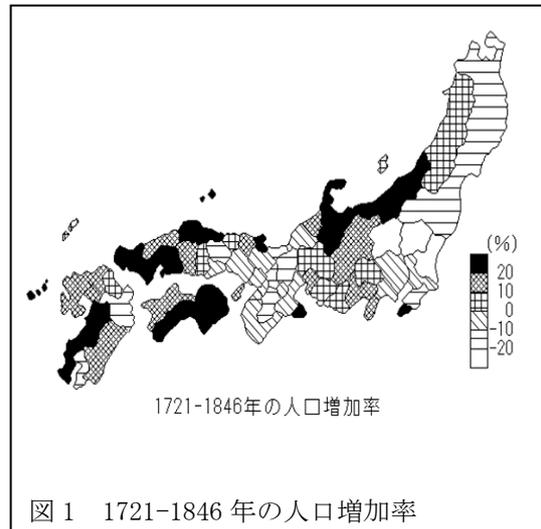


図 1 1721-1846 年の人口増加率

柏市は、図 1 からは極端な減少地域ではないが、北関東における人口停滞および低い出生率の要因とされる間引きに関して、間引絵馬（図 2）などの「子育て教諭」の史料が残っている。この絵馬は、子どもを押し返している女性を鬼に見立てたものだが、その背景画に「子育て繁盛手引草」という子どもを育てることは、家のためにも大切なことであるという教諭が書かれている。この史料および柏市郷土資料展示室所蔵の文書から、女性のライフコースと子育てに関する考察をおこなった（高橋 2016）。史料からは、自己の赤子を遺棄して出奔した、名主の妻が最終的には「病身にて農作業も難しいため離縁」で決着している。幼子を育てながら農作業もおこなわなければいけないということは、肉体的にもかなり厳しかったのではないかと彼女の状況を推察することが出来る。世帯自身の経済的地位が高くても、女性への労働強度が高ければ、女性が子どもを産み育てようというインセンティブは働かない可能性がある。



図 2 間引絵馬（柏市弘誓院所蔵）

(2) 武蔵国多摩郡戸倉新田

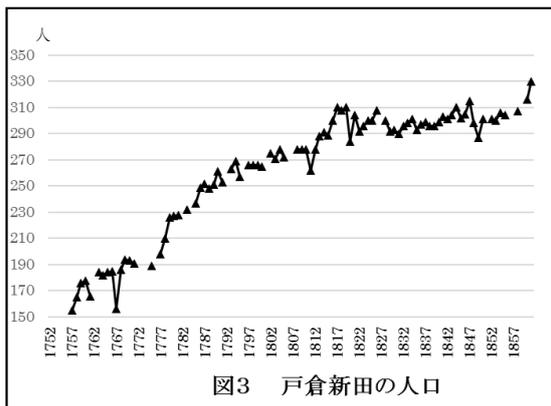


図3 戸倉新田の人口

戸倉新田は、江戸近郊にあり 18 世紀中頃から幕末まで人口を追うことが出来、一貫して増加している。この人口増加は、自然増加（出生）と社会増加（奉公人の移住）の両者によってもたらされたものであった。新田開発に伴う労働需要があり、居住者を養うことが可能な土地では人口増加が可能であった。また、外的要因として、周辺に生活が困難な人口を押し出す力の強い農村が存在したことが戸倉新田の人口を増加させる理由であった。人口増加の割合ほどには世帯数は増えておらず、このため世帯規模は拡大した。従来、江戸期の人口と世帯について経年的観察を行った場合、世帯規模は縮小するといわれてきたが、地域によっては世帯規模が拡大するところも存在することが明らかとなった（高橋 2017）。

(3) 武蔵国多摩郡粕壁宿



図4 粕壁宿宗門人別改書上帳

粕壁宿に関しては、刊本としての史料もあるが（『春日部市史』埼玉県立文書館に赴き史料撮影をおこなった。史料は、中島家文書に属し、天保 7（1836）年、嘉永元（1848）年、嘉永 2 年、嘉永 3 年の 4 年分が現在確認

出来ている。この史料を BDS に写し取った。

(4) 陸奥国安積郡の郡山宿と周辺村落

郡山宿と周辺村落に関しては、共同研究者とともに他の研究費も活用して研究を進めている。具体的には、結婚・離婚と世帯経済の関係について黒須里美麗澤大学教授と共同研究をおこなっている。

また、郡山宿への移動に関して黒須氏と長岡篤麗澤大学経済社会総合センター研究員とともに分析をおこなっている。近世において移動が分かるのは日本の史料の特長である。ただし、このようなデータが得られる地域は残念ながら限定的である。安積郡には、多くの労働者（奉公人）と移住者（引越人）が越後国から訪れていた。この状況を GIS を用いて視覚的に考察中である。

(5) 越後国頸城郡平等寺村

(4) で触れたように、安積郡郡山宿には越後国からの多くの流入者が存在した。この状況は、多摩郡粕壁宿でも見られた。すなわち、この人口移動を明らかにするためには、流入元の村落をも考察する必要がある。そこで、人口史料が残存しており BDS も作成されている平等寺村に関してデジタル化を一部おこなった。しかしながら、平等寺村の史料では、出生・死亡・結婚などについての情報は得られるが、残念ながら奉公に関する情報は得られない。

〔引用文献〕

- ①高橋美由紀、武蔵国多摩郡戸倉新田の人口、経済学季報、第 66 巻第 4 号、2017、57-70
- ②高橋美由紀、江戸時代における女性の労働と出産、経済学季報、第 65 巻第 3-4 号、2016、177-190

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

- ①高橋 美由紀、近世農村における女性のライフコース——陸奥国安積郡の事例を中心に、農業および園芸、2017、近刊
- ②高橋 美由紀、武蔵国多摩郡戸倉新田の人口、経済学季報、第 66 巻第 4 号、2017、57-70
- ③高橋 美由紀、江戸時代における女性の労働と出産、経済学季報、第 65 巻第 3・4 号、2016、177-190

〔学会発表〕（計 4 件）

- ① Satomi Kurosu and Miyuki Takahashi, Famine and Mortality in Early Modern Japan: Evidence from a Local Post Town, The Third Conference of East Asian Environmental History, October 24 2015, Kagawa University
- ②高橋 美由紀、近世日本における都市（宿

場町)の経済と人口、日本人口学会第 67 回
全国大会、2015 年 6 月 7 日、椋山女学園大学
③高橋 美由紀、黒須 里美、近世東北農村
における中小都市と農村の歴史人口学的分
析——陸奥国二本松藩を中心として、社会経
済史学会第 84 回大会、2015 年 5 月 31 日、早
稲田大学
④高橋 美由紀、近世日本中小都市の経済と
人口——陸奥国安積郡郡山宿と埼玉県粕壁
宿、比較都市史研究会第 437 回例会、2015 年
4 月 18 日、立正大学
⑤高橋 美由紀、歴史人口学から考える女性
のライフコース、日本人口学会第 66 回全国
大会、2014 年 6 月 14 日、明治大学

()

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 美由紀 (TAKAHASHI, Miyuki)
立正大学・経済学部・准教授
研究者番号：50361845

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者